

わたしたちの地域学習を発信！校内へ地域へ

- 校内テレビ放送で深める表現 -

兵庫県神崎郡市川町立甘地小学校 松本 正樹

amaji@isis.ocn.ne.jp

http://www3.ocn.ne.jp/~amaji/

1. はじめに

生きる力を育み主体的に活動していく子どもたちの成長が求められている。しかし、子どもたちは、学校・家庭の要求に追われ、人との関わりが希薄になっている。

本校では、ちがいを認め尊重しあえる仲間づくりをめざし、異年齢集団活動を積極的に取り入れている。学級の小集団から縦割りの中集団へとかかわりを広げながらコミュニケーションを深め、自分を知ることで自尊感情を高めてきた。さらに大きな集団へのかかわりをすすめる目的を持って校内テレビ放送を活用して自分を発信していく機会を広げようと考えてきた。子どもたちにとってテレビ放送は、生活の一部であり、受け取るものである。受け身的なメディアから、参加できるメディアへの変化は子どもたちの意欲を高め、「自分」を知る大きな成長につながるものと考えられる。総合的な学習をはじめとする学習課題追求のために全校生に発信する道具にも活用を広げ、テレビ放送を双方向メディアとして位置づけてきた。学習を推進していくためのテーマを、身近な地域に視点を当てて設定し、子どもたちの主体的な課題設定と情報収集を目標としながら発展的な見通しを持ってすすめた。全校生へテレビ放送を活用しながら発信することで表現方法を工夫することをねらいとした。

2. 研究の方法

(1) 地域学習としてのテーマ設定

総合的な学習の時間を本校では、課題追究学習と人権的ふれあい学習の2系統として各学年の学習目標を設定している。

	出会いの時間テーマ	本年度の課題	ふれあいの時間
3年生	地域と共に	やさしさ発見	やさしいみんな
4年生	環境と私たち	ぼくらは環境探検隊	地域のあったかさ
5年生	自然と共に	お米を育てよう	つながり
6年生	世界の人たちと	ふるさと学習 伝統行事	未来へ

地域交流を推進し、それぞれの学年のテーマにもとづいて課題設定をしながら学習を進めた。

(2) 校内発信と交流

本校は、一本のテレビアンテナからの信号を全教室のテレビに配信している。そのラインを活用して簡易テレビ放送システムをセットして校内テレビ放送の発信を推進した。特別活動として高学年児童に放送機器を操作させ、定期放送としての取り組みをすすめてきた。クラスの紹介 ぼくのじまん・わたしのじまん お願いします放送 学校のあるページ ニュースです。など、子どもたちを支援しながら広げてきた。デジタルカメラも取材の道具として利用しながら、子どもたちの主体的な取材への参加をすすめた。学級単位や学年単位でテレビ放送参加を呼びかけ、一人ひとりが輝く画面を構成しながら定期放送へとつないできた。



(資料1：簡易テレビ放送スタジオ)

(3) 校外への発信交流

本校へ転入してきた児童の関係がもとで、高知県の学校との交流をすすめてきた。ホームページをリンクしての交流学習に加えて、テレビ電話(フェニックス)を活用した交流に取り組んだ。校内テレビ放送を活用した発信が広がることをねらって、どのような伝え方をすれば相手により分かってもらえるのかを考えさせてきた。

3. 実践内容

総合的な学習における問題解決学習の課題追求の道具としてテレビ放送を活用した。課題追求のためにインターネットや図書室などを利用する中にテレビ放送での「教えて放送」を位置づけた。どのような願いをすると自分の思いを伝えることができるのかを考えさせ、情報収集に広げてきた。地域課題追求において全校生に呼びかけることは、児童を介し

た保護者への呼びかけにもつながり、学校からの発信として開かれた学校として理解と協力を得ることにもなったように思う。

(1) 校内テレビ放送の自信を交流学習に

3年生は総合的な学習の取り組みが初めての学年である。課題設定を「学校のすごいところを探そう。」と与え、子どもたちの視点で学校のじまんできるところを課題として設定させた。

- ・うさぎをみんなで育てている。
- ・エレベータがある。
- ・テレビ放送ができる。

などの課題を設定し、くわしく調べて知らせる学習に取り組んだ。調べたことを校内テレビ放送で全校生に伝えて異学年交流を実践してみた。他学年からは、「今日、甘地小学校のじまをテレビ放送でみました。それで、たくさん分かったことがあります。エレベータの使い方などたくさんわかりました。あんなによく調べられたと思います。私はとってもわかりやすかったと思います。」(2年生) 「甘地小学校のいいところがよく調べられていました。私もそうだなあと思ったりするところもあって、けっこうおもしろかったです。3年生で協力してよく発表できていたと思います。また、発表してくださいね。」5年生 等の感想が寄せられ子どもたちの大きな自信となった。伝えることの楽しさを実践して子どもたちは、交流校とのテレビ電話交流にも意欲的に取り組むことができた。



(資料2：テレビ電話交流)

(2) 伝えたい思いをラジオ放送参加にひろげて



(資料3：獅子舞保存会の協力)

ふるさと学習として取り組んだ6年生は、地域の伝統的行事 県指定重要無形民俗文化財「甘地獅子舞」を課題として学習を進めた。獅子舞は、地域の祭りとして親しまれており子どもたちには身近な存在である。加えて「甘地獅子舞」は、囃子(ばやしこ)として子どもたちが参加する舞いであり情報の収集にも適していた。地元保存会の協力を得て学ぶことで、獅子舞のルーツなどに関心を持ち、最終的には「中国」「シルクロード」「世界の仮面」など世界へ視野を持った学習に広がっていった。

学習した地域に残る伝統行事をたくさんの人に伝えたいという思いを校内テレビ放送を使って全校児童への番組作りとして取り組んだ。1年生から5年生までわかりやすく伝えるには、どのような表現がいいのかグループ内での話し合いをすすめていった。

紙芝居の表現にするグループ、実際に獅子頭を作って獅子舞を実演するグループ、インターネットで調べたたくさんの写真を使うグループなど意欲的な話し合いによって番組作りをすすめ、放送することができた。さらに表現を深め校内学習発表会でも取り組み保護者へ発表をした。

子どもたちの思いをもっと広げようと、中播磨地域コミュニティFMラジオ放送局「FM元気」へ出演した。自分たちが調べてきた学習について校区を含めた大きな地域へ知らせることができた。リスナーの方よりはげましをもらい大きな自信となったようである。

児童感想から

ぼくは、ラジオ放送のいいところは、今まで調べたことをたくさんの人に聞いてもらえることだと思います。それにぼくは、ラジオ放送をしているところを目の前で見たのは初めてだったからそのこともいい経験になりました。



(資料4：FMラジオ放送スタジオ)

4. 成果と課題

主体的に働きかけることで交流がさらに深まっていくことを知り、校内から校外へと人間関係を深めることにつながり、自尊感情の高まりと共に学習の深まりとなることが実践できた。身近なメディアを生活の中に組み込み、子どもたちの自分発見として広げることができたことは大きな成果である。

表現力を豊かにすることは、児童の基礎基本をあらためて見つめ直すことである。生きて働く力が、それぞれの学年に応じた読み・書き・コミュニケーション能力の確かな定着であることを再認識していきたい。